

野外コウノトリの見分け方

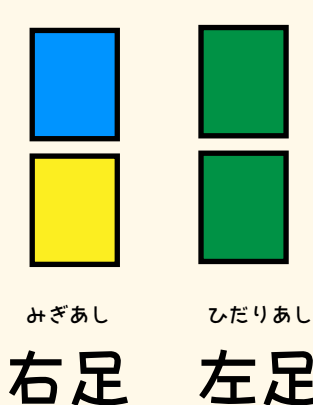
足環に注目！

野外で暮らすコウノトリには、個体識別ができるように可能な限り「足環」を装着しています。

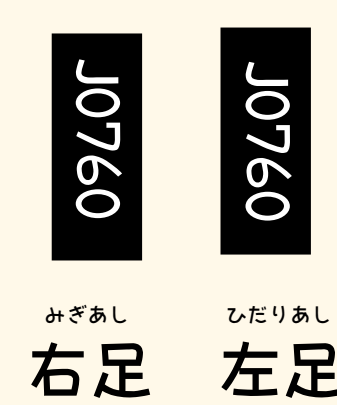
足環の色の組み合わせや英数字で、その個体が、いつどの地域で生まれたのか等を調べることが出来ます。



ひなたの足環



たけるの足環



【足環の検索】は以下にアクセス★

野田市 HP「コウノトリ放鳥情報」または IPPM-OWS(コウノトリの個体群管理に関する期間・施設間パネル)の「コウノトリ個体検索」

野田市役所 みどりと水のまちづくり課では、野外コウノトリの目撃情報を収集しています。コウノトリを見かけた際は、ぜひご一報ください★

野田市役所 みどりと水のまちづくり課 TEL：04-7199-8147

野外コウノトリの見守りマナー



観察・撮影は、コウノトリから150m以上離れて。



餌付けをしないで。



追いかけてたり、驚かさないで。



フラッシュ撮影や、ライトを当てないで。



大きな声や音を出さないで。

※ コウノトリにできるだけストレスを与えず、安心して暮らせるようにご協力をお願いします。

コウノトリは何を食べる？

コウノトリは肉食性で、魚・カエル・昆虫・ヘビ・カメ・ミミズ・ネズミなど、水辺に棲む様々な生きものを食べます。



1日5009くらい食べるので、エサとなる生きものがたくさんいないとダメなんだ！



カメをキャッチ！
硬い甲羅がありますが、
丸呑みにして
食べちゃいます★



セラ：2024年6月24日千葉県香取市にて撮影（香取市在住の方ご提供）

どこで巣作りをするの？

巣は直径2mほど。

昔は高い松などの木の上に作っていました。
現在は巣を作れる場所が少ないため、人工巣塔を建て、
コウノトリが巣を作りやすくしています。



高さ 12.5m



直径 2.0m

木間ヶ瀬に設置した人工巣塔

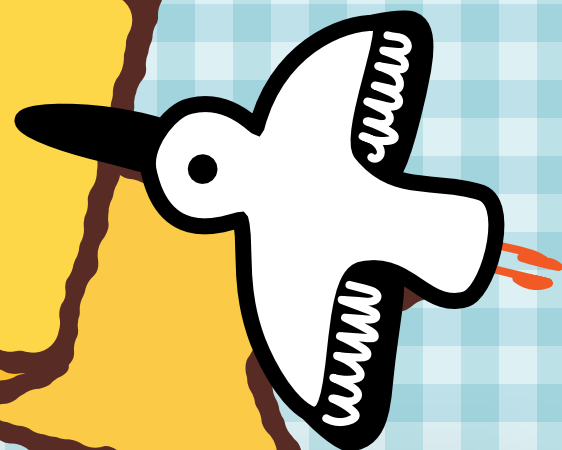
コウノトリはどうして絶滅してしまったの？

- 田んぼに農薬がまかれ、エサとなる生きものが減ってしまった。
- 巣となる木が伐採され、棲みにくくなってしまった。
- 食料や剥製にするために乱獲されてしまった。

エサや棲みが減って暮らしにくくなってしまった上に、乱獲もあり、1971年（昭和46年）、国内の野生コウノトリが絶滅してしまいました。

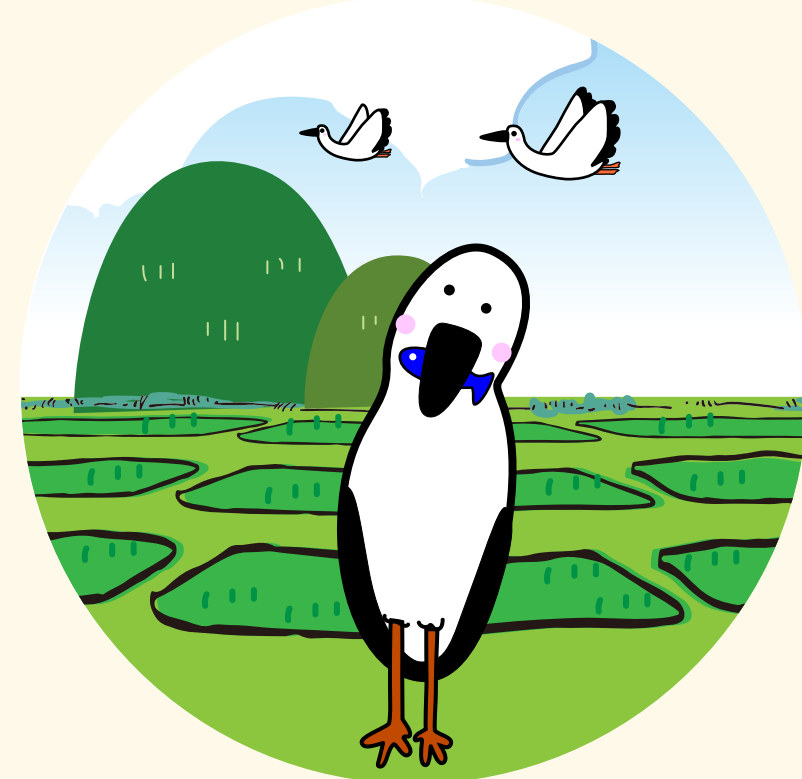


のだ どうして野田でコウノトリ?



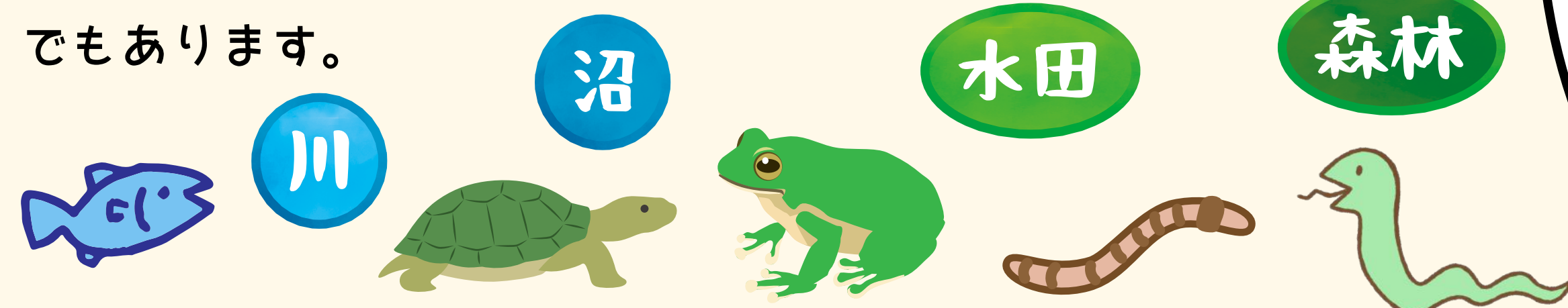
野田市のコウノトリを生物多様性のシンボルに据えて、「ヒトと自然が共生する街づくり」に取り組んでいます。

どうしてコウノトリ?



コウノトリは体が大きく、湿地や水田においては、食物連鎖(食べる・食べられる関係)の頂点に位置しています。

そのため、野外コウノトリが暮らせる環境を整えることは、エサとなる多種多様な生きものを含め、自然環境全体を守ることでもあります。



そして、豊かな自然を守るとは、私たちヒトの暮らしを守ることにもつながります★



野田市が目指しているのは、コウノトリを通じて、ヒトも生きものも安心・安全に暮らせる街をつくること★

皆さんと一緒に、ご協力をよろしくお願いします!

しぜん しぜん まも とく 市内の自然を守る取り組み



① 自然にやさしい黒酢米づくり

自然や生きものにやさしい農業を目指して、様々な栄養分が含まれている玄米黒酢を使用した稲作に取り組んでいます。

化学肥料や農薬の使用を半分以上に減らすことができます。



黒酢米は、市内の給食で採用されています★
ぜひご自宅でも食べて、農家さんを応援♪

① ふゆ水田んぼの実施

イネを収穫した後の田んぼは、水を抜くことがほとんど。

しかし水が無くなると、生きものが行き場を無くしてしまいます。

そこで、収穫後の冬期も田んぼに水を張ることで、水辺の生きものの棲みかを守ることができます。



希少種のニホンアカガエルは1～3月に田んぼなどの湿地で産卵するため、水を張っている繁殖地を守れる♪

ニホンアカガエル

③ 希少な生きものが生息する地区を調査・保全

毎年実施している環境調査では、希少な動植物が生息している地区を調べ、生息環境が損なわれないように保全しています。

なぜ自然を守る必要があるの？

自然・生きものから恵みを受けることで、ヒトは安心・安全に、そして楽しく暮らすことができます。



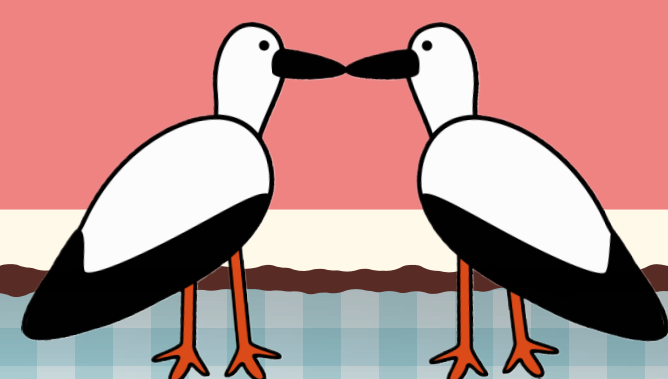
ヒトを含めて、全ての生きものは互いに支え合い、関係し合って暮らしています。

気温の変化を含め、生息環境が変化することで生態系のバランスが崩れ、多くの生きものが絶滅の危機に瀕しています。

生きものの危機は、巡り巡って私たちヒトの生活の危機でもあります。



多種多様な生きものが暮らすことが出来る豊かな自然を守ることが、ヒトの暮らしを守ることにもつながります。



市内の自然を守る取り組み

① 自然にやさしい黒酢米づくり

自然や生きものにやさしい農業を目指して、様々な栄養分が含まれている玄米黒酢を使用した稲作に取り組んでいます。化学肥料や農薬の使用を半分以上に減らすことができます。



黒酢米は、市内の給食で採用されています★
ご自宅でもぜひ！食べて農家さんを応援♪

① ふゆ水田んぼの実施

イネを収穫した後の田んぼは、水を抜くことがほとんど。しかし水が無くなると、生きものが行き場を無くしてしまいます。そこで、野田市では収穫後の冬期も田んぼに水を張る「ふゆみず田んぼ」に取り組み、水辺の生きものの棲みかを守っています。



希少種のニホンアカガエルは1～3月に田んぼなどの湿地で産卵するため、水を張っていると安心！

ニホンアカガエル

③ 希少な生きものが生息する地区を調査・保全

毎年実施している環境調査では、希少な動植物が生息している地区を調べ、生息環境が損なわれないように保全しています。